

令和2年12月24日

草薙神社
関係各位

常葉大学 造形学部絵馬制作有志一同

令和辛丑年 絵馬制作について（デザイン・コンセプトなどについて）

冬至も過ぎ、ほんの僅かながらも日が長くなり、新年に向けて明るい年になるよう願っております。

草薙神社様におかれましては、年末年始のご準備等、ご多忙なものと存じます。大学の地元にある親しみある神社としまして、益々のご発展を祈念しております。

さて、この度は境内に設置される絵馬の制作を依頼いただき、深く感謝申し上げます。私たち絵馬制作に係わった有志は、本年度入学したばかりの1年生10名です。お話をいただいた当初は、17名程のメンバーでしたが、遠方からの通学、アルバイトや学業の関係、活動時間の都合等があり、減ってしまいました。しかし、相談をしたり、話し合いをしたりと、実際の作業には参加できなくとも何らかの形で参加はしてくれました。そうした意味でも皆でつくり上げた絵馬だと思っております。

私たち1年生は、高校の卒業式も例年とは違っていませんし、大学の入学式もありませんでした。希望を抱いて始まった前期授業もほとんどがオンライン授業で、学友と顔を合わせたのは、夏も近い頃でした。すぐに夏期休業となり、親しく話をする機会も少なく、大学生の自覚が持てないまま後期授業になりました。楽しみしていた大学祭も中止となり、クラブ・部活動は、コロナ禍によってかなり制限されています。このまま何となく1年間が過ぎようとしていた中、今回のお話をいただきました。合津先生よりインフォメーションがあり、思いを同じくした有志が集まり制作いたしました。

厚労省と大学の感染症予防対策に従い、3密に配慮しながらの制作は、初めてであり慣れないことばかりでしたが、ご指導の下、本当に楽しく有意義な時間を過ごし、達成感を抱くことができました。何となくもやもやした感じの大学生活を送ってきましたが、学友との絆を築き、努力の結果が形となって現れた思い出に残る年の瀬となりました。そして何よりも、学生として地域に多少なりとも貢献できた喜びは、何事にも代えられないこととなりました。このような機会を与えてくださったことに、改めまして心より感謝申し上げます。

長々と私共の思いのみを綴りまして申し訳ございませんでした。本来お伝えすべき絵馬に係わる事柄を以下のように記させていただきます。ご一読いただければ幸いです。

今後とも、私たち造形学部の学生の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

1. 制作日数および制作者数について

約4週間 デザイン案作成等を含む参加者17名、制作者10名

2. 絵馬のデザイン・コンセプトについて

- ・草薙神社の特色と辛丑年を我が国の新しい文化である漫画・アニメ的な表現で明確に伝えること。
- ・従来の絵馬の表現を継承しながら、新しい絵馬デザインの価値観を提案すること。
- ・すべての人や世代に伝わることができる伝統と革新の融合を図ること。

3. デザインと絵・図について

- ・草薙神社ということで、古事記に登場するヤマトタケルと草薙の剣にまつわる話を中心にデザイン全体をまとめました。ヤマトタケルが草薙の剣によって迫る炎を切り裂く場面を迫力と威厳が伝わるように描き表しました。
 - ・丑年、特に来年の辛丑年は、辛いことに幕を下ろし希望の年とも言われています。このことを、黒い牛と白い「丑」の文字によって表しました。黒い牛は「忍耐」を表す図像で、コロナ禍の状況を耐える姿を表します。白い牛は「希望」を表しますので、ヤマトタケルの草薙の剣の剣の道筋によって描かれた「丑」の文字を白色にすることで表現しました。
 - ・ヤマトタケルは、動きのポーズを躍動的に表すため、漫画の手法である誇張された遠近法を使って動きを表しました。そのことにより平面的な描き方にもかかわらず、奥行の空間が表現できました。服装等は戦いのイメージではなく、登呂遺跡の資料を参考に簡素なものにしました。
 - ・ヤマトタケルと黒牛、白色の丑の字を絡ませて描いたことにより、耐え忍ぶことから希望を見出す思いを強調したデザインとなっています。
 - ・静岡の象徴である富士山と希望の光の日輪、縁起の良い紅白梅図を絵馬の上部に描き、全体の絵画的バランスをとり、下半分の激しい動的なイメージと上半分の落ち着いた静的なイメージの融合により安定した構図にしました。
- また、ここでも平面的な表現に遠近感を与えるために、葛飾北斎の富岳三十六景などで使われた伝統的な遠近法である、ものの大小の違いの組合せによる遠近表現で表しました。

4. その他

- ・檜の素材感と木目を生かすことと伝統的な絵馬の手法から、敢えて絵具を塗らないままの木地に透明ニス仕上げの個所をデザイン効果として用いました。

以上